

一般演題1 O1-4

「高気圧酸素療法における安全性と患者サービス向上を目指した取り組み」

小田奈穂美 西野明子 舟崎由子 吉田こずえ
両角康子 山口真実¹⁾ 大橋景子²⁾

小林未央子²⁾ 三上 学²⁾

- 1) 東京都立墨東病院 看護部 救命救急センター 臨床工学室
2) 東京都立墨東病院 看護部 救命救急センター 救命科

【背景】

A病院は病床数765床を有する東京都の区東部医療圏における地域中核病院である。平成27年度より高度救命救急センターに第2種高気圧酸素治療室を併設し、入院患者を対象に高気圧酸素治療（以下、HBO）を開始している。治療には、救命救急センター救命科医師、臨床工学技士、救命救急センター看護師が業務に携わっている。運用当初は救命科に限り治療を行っていたが、現在は他科の患者に対しても幅広く対応し、平成30年度の診療報酬改定に伴い治療件数は増加となった。HBOを実施している患者の9割以上が救命救急センター以外の病棟から出棟しており、治療の準備はそれぞれの病棟に委ねている現状がある。

【問題点】

治療に対する安全性の確保や患者サービスの向上のためにはHBOに関わる業務を見直す必要があり、現状から3つの問題点を抽出した。第一に、HBOを担当する救命救急センター看護師（以下、HBO担当看護師）の患者対応に関する情報共有不足があった。情報共有の方法が統一されていなかったため、さらには患者への対応も統一が図れていなかった。第二に、他病棟の看護師はHBO業務の経験がないが、患者への説明や治療準備などの対応をしなければならない現状があった。また、HBO担当看護師は治療前の患者に直接介入できる機会がない現状もあった。そのため、HBO担当看護師と病棟看護師の連携不足が生じた。これらの問題により、患者への説明不足という第三の問題が生じた。他病棟での患者への説明不足や治療の準備が十分に行えず、治療直前に閉所が苦手であることが判明する、禁忌であるデバイスを挿入しているなど、治療が円滑に進められないことがあった。

【解決策】

HBO業務の整備と共に患者用パンフレットを作成することで、治療における安全性と患者サービスの向上に繋がると考え取り組みを行った。第一に、交代制で業務を行う看護師でも統一した対応ができるよう、HBO看護業務をまとめたファイルの改訂を行った。第二に、他病棟との連携強化に関しては、治療の安全性が確保でき治療が円滑に行われるよう、入室時間の案内や入室時点検内容、治療の休止時の連絡体制等を文書で示し、看護師長会を通して全病棟へ周知を行った。第三に、患者サービス向上の取り組みとして、患者用パンフレットを作成した。医師からの説明時に配布される書類は文字が多く治療イメージがつかなくいと考えられたため、患者用パンフレットにはイラストや治療室内の写真を用い、HBOを可視化できるように努めた。また加療中の患者にとって負担とならないよう配慮し、文字を大きくするなどの工夫をした。

【結果】

HBO業務の整備ではファイルの改訂により、情報共有の方法が確立した。その結果、患者への対応の統一が図れ、交代制で業務を行う看護師が戸惑うことなく対応できるようになったことでスムーズな入室も可能となり、患者サービス向上に繋がった。他病棟との連携強化では、文書で安全管理や治療運用等を示し周知を行った結果、装着禁忌物品の装着はなく経過しており、治療の安全性が確保されるようになった。また、入室時間が厳守され、治療の休止等の対応方法も周知することで円滑に治療が進められるようになった。これらのことより治療の安全性が確保され、円滑な治療を提供する環境を整備することができた。

【今後の課題】

今後は、HBO担当看護師が他病棟の患者に対して治療前訪問をし、患者用パンフレットを活用して治療前説明を行うことが課題である。そうすることで、患者の治療に対する理解が深まり協力が得られやすくなり、治療への安全性もさらに高まる。そのため、患者用パンフレットを用いたHBO治療前の体制構築を目指し、他病棟との連携強化やHBOに携わる職員の知識や理解の向上に努めていきたい。